

第9回山のトイレを考えるフォーラム開催にあたって

岩村 和彦（山のトイレを考える会・代表）

昨年4月より新たに代表を仰せつかりました。浅学菲才にて大役を務めるには力不足を承知しておりますが、頼りになる同志達がいるというのが私の支えであります。

さて皆様におかれまして平成19年度はどんな年になったでしょうか。

社会的には様々なことが起こった年でした。食品の偽装問題続出で食に対する猜疑心の増大、また北国北海道では欠かすことのできない灯油に始まる石油製品の異常な高騰は、不況と言われる中で暮らしを直撃しています。親族間での殺人などの犯罪も異常に目に付くもので、痛ましい事件事故は数えられないほどです。

事故と言えば山岳、特に冬山での事故は記憶に新しいところです。昨年11月のカミホロカメットク山の雪崩事故で4名の尊い命を失ったことは、山のトイレを考える会にも甚大な影響を及ぼしました。故鈴木和夫さんは当会に欠かすことのできない事務局メンバーとして実に多大な貢献をしてくれました。その存在を一言で表すならば「気は優しくて力持ち」に尽きるでしょう。昨年7月14日には私も同行して、奇しくも事故の現場付近のカミホロカメットク山避難小屋のトイレに看板を取り付けに行ったのが山をご一緒した最後となりました。ここに改めて故人に対し深く哀悼の意と共に、これまでの山岳環境保護活動に対して心から感謝を申し上げる次第です。

今年も第9回目のフォーラムをこうして迎えることができました。多くの皆様のご理解ご協力ご支援があって開催できますことにまずはお礼申し上げます。

昨年の活動状況については次ページに書いてある通りですが、屋外は当然としてこれまで深く踏み込んでいなかった山（避難）小屋トイレでの使用済みの紙についても、積極的に持ち帰りを呼びかけることにしました。その手始めとして大雪山・十勝連峰のトイレ4箇所の使用済みの紙持ち帰りと、ゴミ捨て禁止のお願い看板をその理由を明記して取り付けました。原則便所にはし尿以外のモノを一切入れないことで、汲み取りの手間の省力化や汲み取りまでの期間の延長を図ることができます。また各地の登山口にある簡易トイレについても同様にすることで、全国に先駆け北海道スタンダードとしてのトイレルールを確立することが急務です。

美瑛富士避難小屋トイレ設置署名の26768筆の重さは改めて記すまでもありません。今回のフォーラムではトイレができた後の管理の主体をどう構築するか、を具体的に検討できればと考えています。どんなトイレを設置するかと同様にその後の維持管理をどうするのかは極めて重要な、かつ避けて通れない問題です。またそれらは山岳会の高齢化や会員の減少、国や地方自治体の財政の逼迫など現在進行中の社会情勢と決して無縁ではあり得ません。誰かがやってくれるだろうとは過去の世界です。

現実的に可能な方策とは何かを皆様と意見交換できることを切に希望します。